

## 各地区業況アンケート結果（2022年11月調査分）

（2022年11月22日）

全国鉄鋼販売業連合会

日頃より当会へのご協力厚く御礼申し上げます。さて、11月21日締切で、当会役員141名に対しこのアンケートを行ったところ71名の回答があり（回答率50.4%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。DI = (A×2+B×1-D×1-E×2) ÷ 総回答数×100、(数は回答実数)

### 1. 4割弱の企業が前年割れ

問1】貴社の10月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	13	8	22	11	16	70	73
比率	19%	11%	31%	16%	23%	DI-13	DI-48
売上金額/前年同月比	28	11	21	4	7	71	74
比率	39%	15%	30%	6%	10%	DI+69	DI+65

### 2. 収益良好、再びD I 値三桁に

問2】貴社の10月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	27	24	16	2	1	70	73
比率	39%	34%	23%	3%	1%	DI+106	DI+89

### 3. 民間建設のD I 値がプラスに

問3】貴社の営業窓口から見て11月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向	1	11	26	11	2	51	-4	-6
民間建設向	1	18	24	11	1	55	+13	±0
自動車向	1	3	21	8	1	34	-15	-29
その他需要家向	1	11	31	13	1	57	-4	+2
仲間取引		4	31	13	4	52	-33	-33
計	4	47	133	56	9	249	-8	-12
比率	2%	19%	53%	22%	4%			

### 4. 冬場の不需要期で減少傾向

問4】貴社における向う12月から2月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横這い	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	1	16	30	15	8	70	74
比率	1%	23%	43%	21%	11%	DI-19	DI+15

## 5. 鋼板類の過剰感解消されず

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	品種別	A	B	C	D	E		11月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-6	-15	-17	-10	-10	-10	-3	-12	-21	-4	-17	-8	鉄筋用丸鋼			25	4		29	-14
6	-3	-7	-3	-14	-23	-7	-14	-23	-21	-15	-17	構造用丸鋼			25	5		30	-17
6	-10	-9	-9	-10	-6	-11	-17	-19	-15	-9	-15	平角鋼			29	3		32	-9
35	20	7	0	-10	-7	0	3	14	14	7	4	H形鋼		3	22	1		26	8
139	88	91	13	19	30	39	30	19	33	27	33	コラム		5	14			19	26
6	-11	-6	-15	-21	-11	-26	-30	-23	-18	-14	-18	小形山形鋼			27	5		32	-16
3	-11	-6	-18	-21	-12	-22	-28	-32	-20	-19	-25	中形山形鋼		3	23	7		33	-12
6	0	-6	-9	-9	-15	-19	-27	-18	-15	-15	-16	溝形鋼		4	23	5		32	-3
34	19	0	0	-4	-10	-6	-15	-14	-15	-14	-13	軽量形鋼C形			22	4		26	-15
27	-5	6	0	-6	0	0	-13	-12	-13	-17	-6	軽量形鋼広巾			15	1		16	-6
79	45	24	3	-41	-39	-33	-61	-61	-63	-67	-52	冷延薄板			14	12	2	28	-57
53	35	17	-17	-33	-20	-23	-44	-41	-45	-56	-45	熱延薄板			15	14	3	32	-63
97	59	47	21	-24	-30	-26	-41	-34	-48	-56	-26	表面処理鋼板		4	17	10	2	33	-30
80	47	15	-15	-27	-35	-31	-57	-64	-79	-81	-56	酸洗鋼板		1	9	14	3	27	-70
43	30	10	-13	-18	-14	-9	-33	-37	-46	-36	-42	中板		1	19	13	2	35	-46
67	53	26	-3	-5	-10	-23	-27	-35	-38	-33	-30	厚板		1	26	9	1	37	-27
52	35	26	9	18	-6	-17	-6	-12	-12	-17	5	極厚板		2	14	2		18	0
33	7	14	3	-7	-3	-13	-23	-21	-21	-25	-12	縞板			21	5		26	-19
64	21	16	0	-3	-3	6	-3	-3	-13	-6	-14	中径角			26	2	1	29	-14
38	23	6	-3	0	-14	-6	-6	-9	-12	-20	-9	ガス管黒			27	4		31	-13
38	19	13	0	0	-9	-3	-6	-6	-10	-16	-3	構造用鋼管			26	4		30	-13
43	21	12	-4	-12	-13	-13	-22	-23	-24	-25	-20	計	0	24	439	124	14	601	-21

## 6. 中小物件若干出始めるも期待していた秋需は今ひとつ

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	酪農を巡っては平成27年から畜産クラスター事業として国から50%の補助金を出して農場の大規模化を進め乳牛と乳量ともに増やしてきた。しかし、ここへきて政策が一転し、乳牛（経産牛）に交付金を出して4万頭削減へと真逆方向へ。これでは酪農家の設備投資は期待できない。
	B	北海道の丸棒は来年度に比重が移っている。高値継続のまま来年度へ。危うくば、電力料金や電力環境を理由に閑散期にも関わらず値上げもあり得る。
	C	安値が出始めている。
	D	降雪前の需要期となるはずが、中小物件が少なく全体として苦戦している。少しずつ価格転嫁を進めているが、収益も低下しており厳しい状況。
	E	(形鋼)10月荷動きは今年度のピークを迎えたが、予想範囲内であった。11月は秋需も落ち着き、一転して冬場の荷動きとなった。積み残し値上げは抵抗強いが継続中。
東北	A	期待していた秋需は今一つで荷動きは低調。反面、ファブの山積みは高く1次加工の依頼が当方にも集中。また、現場の人手不足も聞こえており、厳しい納期となっている模様。価格面では弱含みで落ち着いている。

新潟	A	建築関連は変わらず好調。産機関連では引き続き商品調達の面で調整が入っているユーザーもある。建設関係は県外物件を中心に来春以降まで仕事が埋まっている。県内物件であれば恩恵もあるのだが。
	B	電力の値上げから再度値上げとの噂もあるメーカー動向に注視していきたい。
	C	荷動きが低調。価格は弱含み。
	D	メーカーからの入荷が順調である。値上がった物が入ってきて在庫価格が上昇しており、その割に価格転嫁が厳しい。地元物件が少ないために益々、そのような傾向である。
	E	全体的に停滞感はより強くなっているが、自動車部品は久しぶりにほぼ内示通りの生産か。除雪機器は例年より小ロット早期完了。
	F	現状、仕事量はあるが、12月以降が不透明。引合いはやや増加傾向だが、まだまだ昨年には及ばない。関東からの安い形鋼の売込みが目立ち、新潟市況に悪影響を及ぼしつつある。
	G	建築関連は比較的好調を維持できているが、製造業系の需要家からの引合いは少なく市況もバラツキが見られる。
川口		当社は高炉製品しか扱っていないが、現在、高炉価格と電炉価格に大きな差があるため、高炉の製品価格は一般市中価格とは別の価格設定となっている。また、昨今の鋼材単価の上昇により、売上金額が増え与信問題にはかなり気を遣う状況。
東京	A	工事案件増加と原因は加工施工先の人員不足による納期遅延対策。そもそも出図の遅れを加工、施工で補おうというもので所詮無理がある。気合と根性では前に進まない現場を知らない行程担当の問題だけではない。事故が起きてからでは遅い。
	B	建機関連は引き続き好調を維持。シームレス管は2段階目の値上げを実施。比較的スムーズに価格改定を受入れられた様子である。
	C	需要がない中で、在庫消費を目的とした安売りも目立ち、市況が上がらず一部高炉品は赤字でも販売せざるを得ず、苦しい環境が続いている。
	D	需要がない中で在庫消化を目的とした安売りが目立ち市況が上がらず、一部高炉品は赤字でも販売せざるを得ず苦しい環境が続いている。
	E	主力製品の磨棒鋼は、ここ数か月横ばい。コロナの第8波が始まった様で今後も予断を許さない状況が続くと見られるため、年末年始にかけ良い材料もなく我慢の年越しになりそうだ。
	F	鉄道関係の動きは鈍いが、その他に関しては動きが出ている。円安と中国国内のコロナ効果の影響で国内での製作に切り替わっている。但し、半導体不足等は引き続き影響を受けているので、受発注と納入量がイコールとなっていない客先もある。
	G	(店売り関連) 売上、出荷量もかなり減少し、今年度の中でも最低水準となってしまった。(建設機械関連) 建設機械は好調を維持しており、下期も引き続き好調が維持できそうである。
	H	信用不安に対する対応を検討しなくてはならない段階にきている。補助金に対する申込書類から審査の簡素化を願う。
	I	鋼板類について需要が全体的に弱く在庫も過剰感がある。表面処理鋼板について鋼板の種類の中でも未だ適正水準に近いと思われ、市況下落は見られないが、その他の品種は荷動き弱く下がっている品種も散見される。形鋼類は物流倉庫やシステム建築等、大型建築の動きは活況だが、中小案件は少ない水準で推移している。分野によって動きは異なるが全般的に堅調と言える。
	J	10月は売上高、販売数量ともに微増となった。細かい仕事が多い中、多少は大きな仕事が散見された。浦安鐵鋼団地内のトラックも若干だが、増えている印象。
	K	(構造用丸鋼) 太丸の価格転嫁はできたが、ベースサイズの値上げは荷動きが悪いため難航している。

東京	L	(平角鋼) 荷動きは前月とほぼ横ばいで低調。価格転嫁も道半ばで利益は圧縮されている。状況が改善する兆しもなく、当面はこのままではないか。
	M	(鋼管) 先高感後退、供給順調、在庫過剰がやや解消。落ち着いた環境に安住ムードが生じ、電気、油、切削用品、インフレの転嫁に遅れをもたらしている。危機感が後退している。北半球が冬入りするとエネルギーの高騰が再発するだろう。メーカー値上げ分の転嫁だけでは採算が低下するばかり。
静岡		各品種、需要減または停滞。値上げ環境になく、積み残し分の転嫁ができないまま年越しなのか。売上確保の安値も散見される。建築は見積り件数の割に決定(出件)数が少ない。素材以外の値上りも続き投資環境に明るさは少ない。
石川		バス、トラックの回復傾向が感じられない。まだ1年位はかかるのか。産機、建機はともに多忙が続いている。特に中堅モノ造り業界は繊維機械を除いて盛況感あり。建築では大口物件は見られるが、小口物件ではまばらな状況。ドラッグストアも天井感が出てきた。住宅ももう一つと感じられる。薄板関係に荷余り感あり。高炉品、電炉品、輸入品の三極に価格差がそれぞれ明確になってきた。暫くはこの状況が続く。ウクライナ問題が収まるまで変動は激しいと思われる。
富山		全体的に低調な動き。感染者増になると稼働率低下で混乱することも少なくな。週末の繁華街は若者で溢れ、第8波の到来による仕事の凹凸は続きそうである。
岐阜		値上げの転嫁不足分をお願いしたいが、荷動きが悪いとステイ、最悪下げになってしまう。建築は少し動き始めているのが、一次加工のリードタイムから予想できる。与信という言葉は不良債権が発生するまで頭から離れてしまう。
大阪	A	引合いはあるものの物件が小さい案件が多く感じる。特にマンション系は10階建て以下がよくみられる。来年度からのコンクリート値上りもあり、杭業者は覆うの件数を抱えている模様。
	B	荷動きは回復傾向が続いている。建築は中小案件が少ないとよく言われるが実際はそのあたりの需要が出ているのではないか。市況価格はじわじわと安値寄りとなっているのが気掛かり。在庫も決して豊富ではないに…。
岡山		鋼材価格も天井付近と思われているのか。お客様も決算対策用に板を積もうとする動きが今年はないようだ。
北九州		もはや秋需は死語とという認識はしているものの倉出し出荷が悪すぎる。販売価格への転嫁が遅れそう。
福岡		自動車関連は本格的な回復とは言えず市中在庫水準は高く市況の反転までには至っていない。その他の分野では部品の入荷状況により生産で明暗が分かれている。